

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0223

(注)本稿は 2012 年月 2 日、3 日、4 日の3回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.4.4

前田 高行

中東・北アフリカ(MENA)諸国の国防支出と兵力ランキング

(MENA なんでもランキング・シリーズ その18)

目次	頁
1. 国防費総額の比較	2
2. 国民一人当たりの国防費	2
3. GDP に占める国防費の比率	3
4. 日本、米国等との比較	4
5. 兵力の比較(2011年)	5
6. MENA 主要国の2006-09年の国防費	6

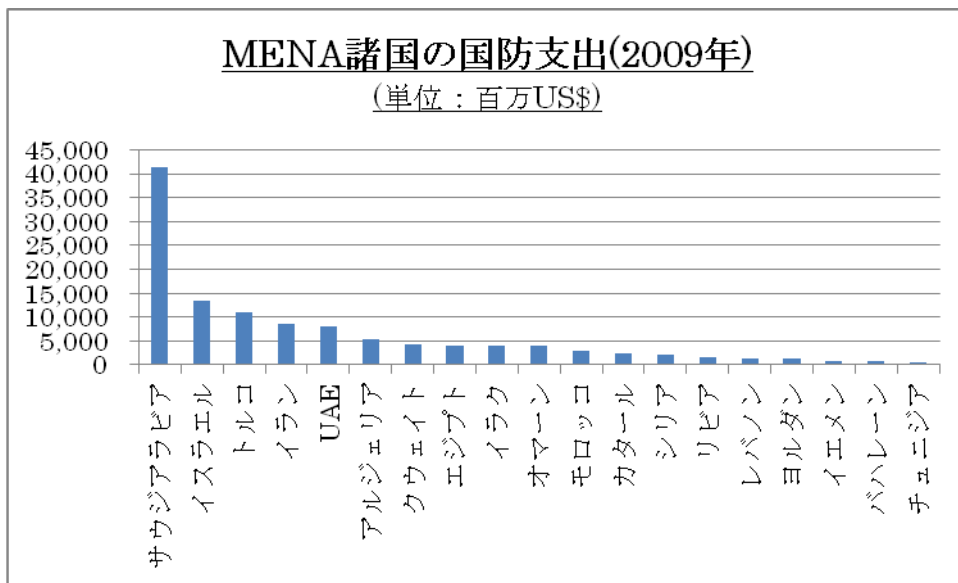
中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら 19 国・1 機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第18回の MENA ランキングは、世界の軍事分析で有名な英国のシンクタンク「国際戦略研究所 (International Institute for Strategic Studies、略称 IISS)」が発表した「The Military Balance 2011」に基づいてパレスチナ自治政府を除く19カ国をとりあげて比較しました。なお理解を促すため MENA 以外の日本、米国、NATO (但し米国を除く)、ロシア、中国及び全世界のデータについても随時比較することとします。

1. 国防費総額の比較

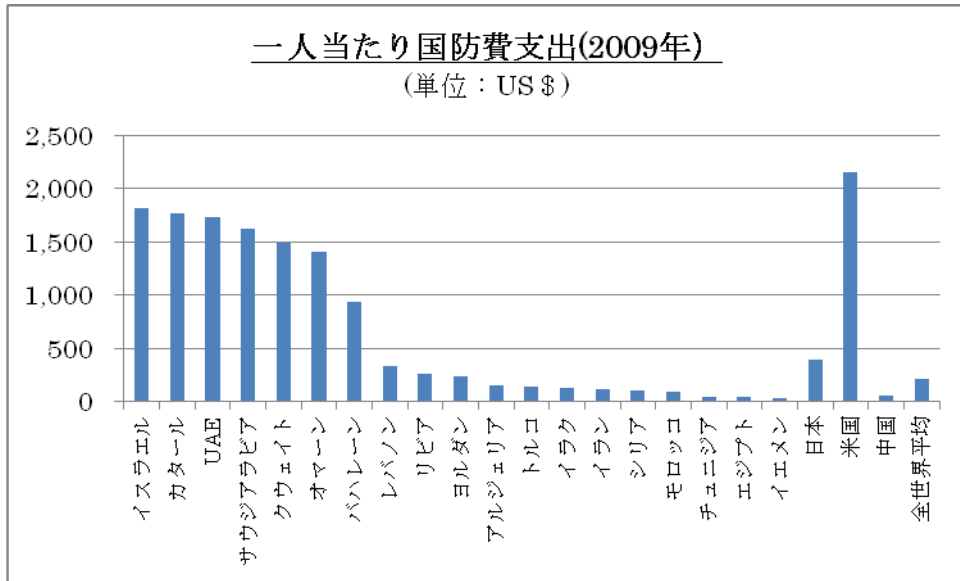


サウジアラビアの2009年の国防費は413億ドルであり MENA 諸国の中では突出して大きい。因みにサウジアラビアに次いで国防費が多いのはイスラエルの135億ドルであり、サウジアラビアはイスラエルの3倍強である。MENA3位はトルコ(109億ドル)でこれら3カ国が100億ドルを超えている。イラン(86億ドル)、UAE(80億ドル)、アルジェリア(53億ドル)がこれに続いている。

第6位以下は50億ドル未満であり、6位から10位まではクウェイト(42億ドル)、エジプト、イラク(41億ドル)、オマーン(40億ドル)がほぼ拮抗している。これら上位10カ国のうちの4カ国(サウジアラビア、UAE、クウェイト、オマーン)はアラビア(ペルシャ)湾沿岸の君主制国家であり GCC(湾岸協力機構)の加盟国である。またこれら4カ国にイラン、アルジェリア及びイラクを加えると上位10カ国中7カ国を産油国が占めている。このような中で2位のイスラエルは周辺をアラブ・イスラム諸国に取り囲まれ異色の非産油・軍事大国である。

一方チュニジア(5.3億ドル)、バハレーン(7.4億ドル)、イエメン(8.8億ドル)は国防費が10億ドル以下にとどまっており、サウジアラビアの50~80分の1、イスラエル、トルコの20分の1前後に過ぎない。但しMENAトップのサウジアラビアでも世界的に見れば日本(511億ドル)よりも100億ドル近く少なく、米国(6,610億ドル)の16分の1にとどまっている。

2. 国民一人当たりの国防費

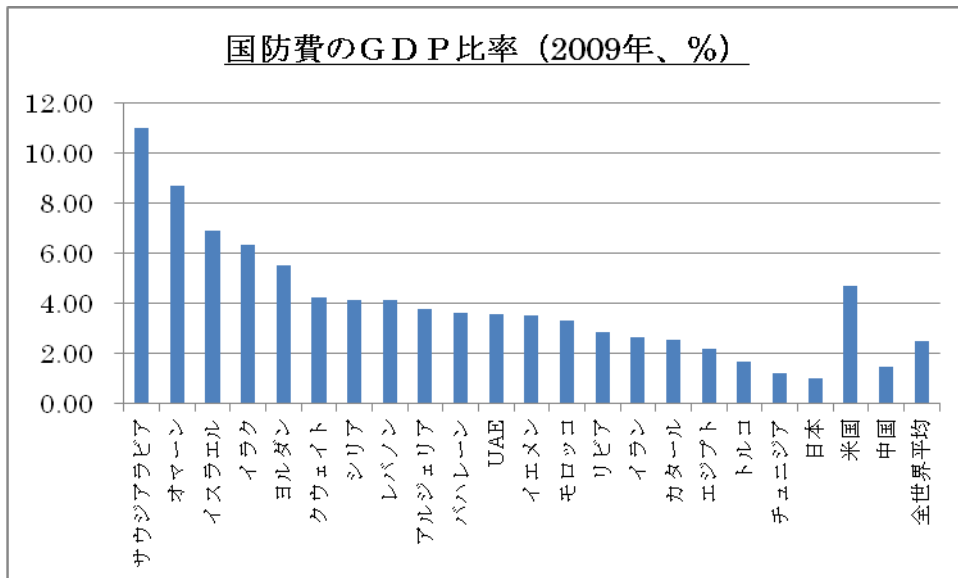


国民一人当たりの国防費で見ると、イスラエルが1,816ドルで最も多く、僅かな差でカタール(1,774ドル)が続いている。3位から7位までには UAE(1,730ドル)、サウジアラビア(1,626ドル)、クウェイト(1,497ドル)、オマーン(1,412ドル)、バハレーン(938ドル)と続いており、2位から7位までを GCC6カ国が占めている。カタール及びバハレーンは国防費総額の順位が MENA19カ国中それぞれ12位、18位であり、両国とも人口が少ないにも関わらず国防費が相対的に大きい。非産油国のイスラエルの一人当たり国防費支出がこれら GCC 産油国をしのいでいることから、同国々民の国防費負担は非常に大きいことがわかる。

8位はレバノンであるが、同国の一人当たり国防費は338ドルであり、7位バハレーンの938ドルと大きな開きがある。そしてリビア及びヨルダンは200ドル台、アルジェリア、トルコ、イラク、イラン、シリア各国は100ドル台にとどまっている。さらにモロッコ、チュニジア、エジプト及びイエメンの4カ国は100ドルを下回っており、イスラエル或いは GCC6カ国との格差は極めて大きい。

全世界平均の一人当たり国防費は214ドルでありヨルダン(234ドル)がほぼその水準にあるが、イスラエル、カタール、UAE 等はいずれも世界平均の8倍前後に達している。また日本、米国及び中国3カ国を MENA 各国と比較すると、米国の一人当たり国防費は2,153ドルとイスラエルを上回っている。日本は400ドルであり MENA19カ国の中では8位のレバノンを上回る水準であり、また中国の一人当たり国防費は54ドルに過ぎず MENA ではチュニジア、エジプトと同じレベルである。

3. GDP に占める国防費の比率



国防費を各国の GDP 比率で見ると、最も高いのはサウジアラビアの10.98%であり、MENA の中で唯一10%を超えている。次に高いのはオマーン8.71%、イスラエル6.91%、イラク6%、ヨルダン5.51%であり、これら5カ国は GDP に占める国防費の比率が5%を超えている。

そしてクウェイト(4.26%)、シリア(4.15%)、レバノン(4.13%)が4%台で続き、3%台はアルジェリア、バハレーン、UAE、イエメン、モロッコである。地域の軍事大国と言われるイラン、エジプト及びトルコの比率はそれぞれ2.63%、2.2%及び1.7%でありMENA 諸国の中ではむしろ低い方である。因みに全世界の平均は2.52%であり、MENA はサウジアラビアを含め比率の高い国が多い。

米国、日本、中国の対 GDP 国防費比率は米国4.68%、日本1.01%、中国1.45%である。米国の比率はヨルダン或いはクウェイトと同程度で世界平均をかなり上回っている。これに対して日本と中国はいずれも1%台であり世界平均を下回りトルコよりも低い。

4. 日本、米国等との比較

上記各項でも一部言及したが、MENA 各国と日本、米国、NATO(米国を除く)、ロシア及び中国とを比較すると概略以下の通りである。

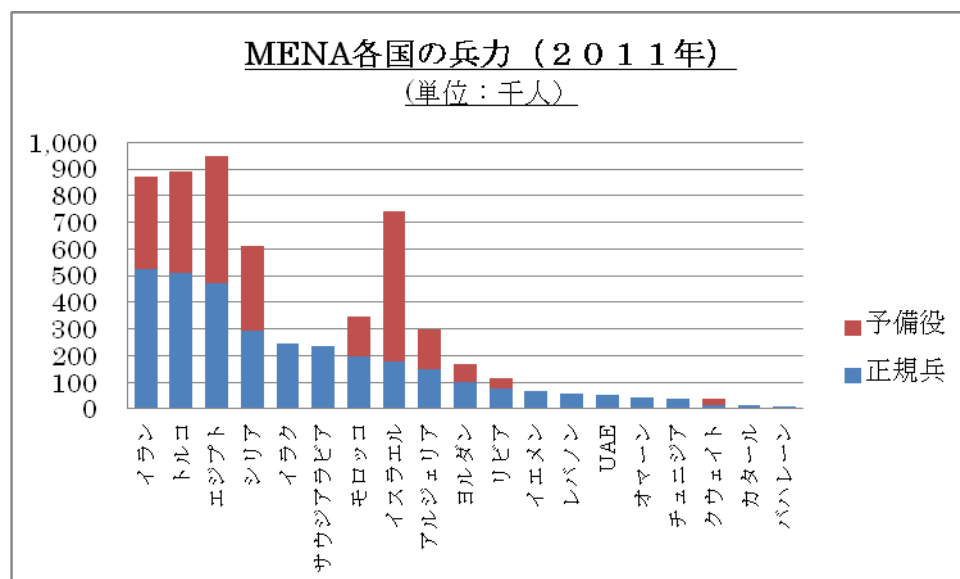
まず国防費総額で見ると米国は6,600億ドルで全世界の国防費の半分近くを占めており、MENA トップのサウジアラビア(413億ドル)の16倍、MENA 全体の合計(1,185億ドル)の6倍と飛び抜けている。また NATO(米国を除く)全体の国防費は3千億ドル強、中国7百億ドル、日本511億ドルであるが、これは MENA1位のサウジアラビアに比べ NATO は7倍、中国は1.7倍そして日本は1.2倍である。ロシア(383億ドル)はサウジアラビアより少ない。

一人当たりの国防費では米国が2,153ドルであり、これは MENA トップのイスラエル(1,816ドル)を上回っている。日本は一人当たり400ドルであり、これは MENA 諸国と比べるとバハレーン(9

38ドル)の半分以下である。世界一の人口を擁する中国の国防費は一人当たりで換算するとわずか54ドルであり、MENA ではイエメンに次いで少ないエジプト(50ドル)を少し上回る程度である。

国防費の GDP 比率で見ると米国は4.68%でサウジアラビア(10.98%)或いはイスラエル(6.91%)に比べかなり低く、クウェイト(4.26%)とほぼ同じである。全世界の平均は2.52%であり、イラン(2.63%)、カタール(2.54%)が平均値に近い。ロシアの比率は3.1%であり世界平均を上回り MENA 諸国と比較した場合、モロッコ(3.34%)或いはリビア(2.84%)と同等の水準にある。一方、日本及び中国は共に1%台(中国1.45%、日本1.01%)である。MENA19カ国中で1%台はトルコとチュニジアの2カ国にとどまっており、経済大国である日本と中国の国防費の GDP 比率は世界的に見てもかなり低いことがわかる。

5. 兵力の比較(2011年)



MENA 諸国の中で兵員数(正規兵力)が最も多いのはイランの52万人であり、ついでトルコ(51万人)、エジプト(47万人)がいずれも50万人前後の兵力を抱えている。イラン、トルコ、エジプトの人口はほぼ同規模の7千万人前後であり、兵員数も拮抗していることがわかる。

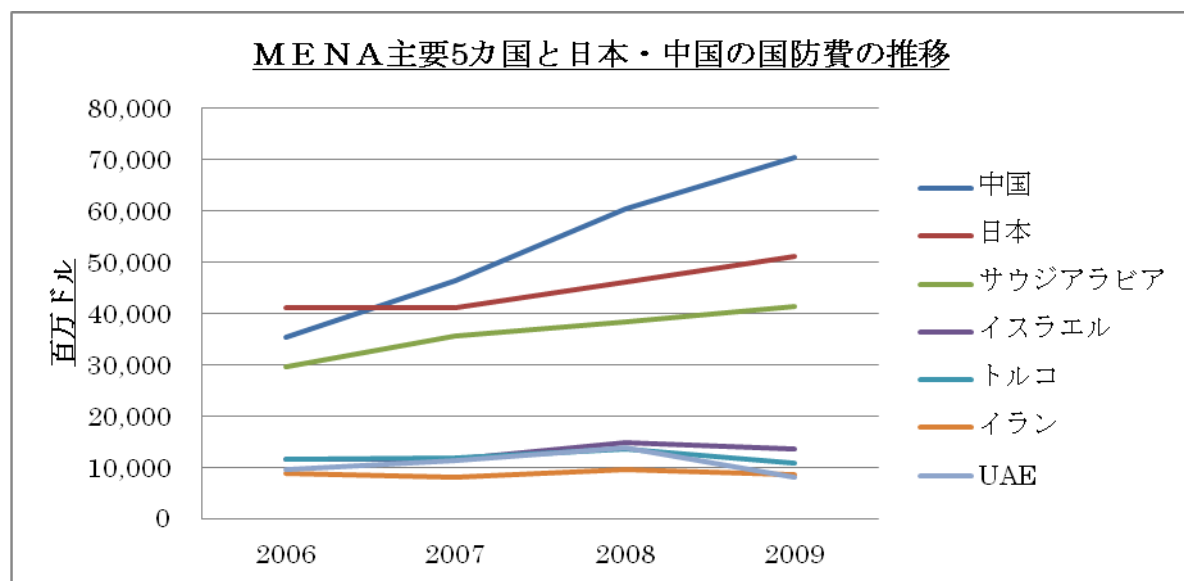
これら3カ国の兵力は際立って多く、第4位のシリア(30万人)やイラク(25万人)、サウジアラビア(23万人)、モロッコ(20万人)を大きく上回っている。イスラエルの兵力は18万人で MENA では第8位である。但しイラク、サウジアラビアを除く各国には多数の予備役がおり、この数を加えるとエジプトが最も多い95万人に達し、トルコ及びイランそれぞれの総兵力はトルコ89万人、イラン87万人を数える。そしてイスラエルには正規兵力の3倍以上の57万人の予備役がおり、これを加えると同国の兵力は74万人となり、一挙に MENA4位の規模に躍り上がる。

一方、サウジアラビア以外のGCC諸国はいずれも人口が少ないため兵力も極めて少なく、例えば UAE は5万人、オマーンも4万人に過ぎず、クウェイト、カタール、バハレーンに至ってはそれぞれ1.6万人、1.2万人、0.8万人にとどまっている。第1項及び第2項に述べた通りこれら豊かな産

油国は国防費総額或いは一人当たりの国防費では MENA のトップグループである。これらの国々は兵力の少なさを軍備で補っていると言えよう。

因みに日本の自衛隊の兵力は25万人であり予備役を加えて30万人とされている。正規兵の兵力は MENA5位のイラクとほぼ同数であり、イスラエルよりは多いが、予備役を加えた場合はアルジェリアと同程度で、イスラエルには及びもつかない。米国、ロシア、中国は正規兵で100万乃至200万人規模、予備役を加えると米国240万人、中国280万人、ロシアは2千万人を超えており、MENA 各国或いは日本とは比較にならない規模である。

6. MENA 主要国の2006－09年の国防費



サウジアラビア、イスラエル、UAE、トルコ及びイランの MENA5カ国に日本、中国を加えた7か国の2006年から2009年の4年間の国防費の推移を見ると、2006年は日本が最も多く(411億ドル)、これに中国(352億ドル)、サウジアラビア(295億ドル)が続いている。他の4カ国はイスラエル(116億ドル)、トルコ(116億ドル)、UAE(95億ドル)、イラン(89億ドル)で各国とも100億ドル前後で並んでいる。

上位3カ国の国防費はその後2009年までほぼ毎年増加しているが、特に中国の伸びが著しく、2007年には日本を追い抜きその後も毎年大幅に増加、2009年には2006年の2倍の704億ドルに達している。因みに日本及びサウジアラビアの2009年国防費はそれぞれ511億ドル、413億ドルである。

イスラエル、トルコ、イラン及び UAE4カ国の国防費は2006年以降微増又は微減にとどまっており、2009年はイスラエル135億ドル、トルコ109億ドル、イラン86億ドル、UAE80億ドルである。同じ産油国であるサウジアラビアと UAE で国防費の伸びに大きな差があることは注目すべきことである。これは中東・アラビア半島地域でイスラム過激派の活動が活発化し、或いはスンニ派とシーア派(即ちサウジアラビアとイラン)の対立の構図が鮮明化しており、サウジアラビアが地域の治安維

持に積極的に取り組み始めた兆候と言えよう。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp